

# 第1回地域包括ケア推進会議 協議事項

日時：令和元年7月17日（水）18:30～

場所：いわき市総合保健福祉センター 多目的ホール

## 資料構成

- (1) 本人の選択と家族の心構え
- (2) すまいとすまい方
- (3) 介護予防・生活支援
- (4) 医療・看護・介護・リハビリ・  
保健・福祉



## 前回（H31第3回）の主な発言要旨

- ① ハイリスク者の把握に関して、病院・事業所に情報が集まる印象があるが、包括支援センターが独自に発見してサービスに繋がるケースもある。行政・民間で力を合せて一緒にサポートしていく必要がある。
- ② 支え合い活動に関して、社会福祉法人の公益活動とリンクさせることが国の指針としても出てきている。地域の社会福祉法人がどのように地域とコミットして役割を果たしていくのかが大切である。住民だけでは世代交代の課題もある。活動を持続可能なものにしていくには、社会福祉法人の力を活用するのも一つの案である。
- ③ 入居・入所・葬送等支援事業は、セーフティネットのような補完的な事業に思われるが、高齢者の増加等の背景を踏まえると、選択肢の一つとして捉えられる事業であると感じている。本人の意思は大前提であり、そこはみんなで守っていかなくてはならない。
- ④ 他自治体ではサービス付高齢者向け住宅での利用者の困り込みが問題になっている。市でも啓発を行ったり、事業所のスキルを上げるなどの取り組みにも力を入れてほしい。



# 中地域ケア会議の検討事項について

## 平地区

- 第1回：7月 予定
- 第2回：9月 予定
- 第3回：調整中
- 第4回：調整中

- <主な検討・取組事項>
- 地域課題等についての報告、委員協議（予定）
  - 個別事例等検討（予定）

## 小名浜地区

- 第1回：6月26日開催
- 第2回：9月 予定
- 第3回：11月 予定
- 第4回：2月 予定

- <主な検討・取組事項>
- 認知症対策部会からの報告・事例検討
  - 小名浜多職種連携チームの実働について

## 勿来・田人地区

- 第1回：8月 予定
- 第2回：11月 予定
- 第3回：3月 予定

- <主な検討・取組事項>
- 医療・介護・健康フェア
  - 田人地区講演会
  - 福祉サービス空白地の食の確保について
  - 地域課題の再検討

## 常磐・遠野地区

- 第1回：8月 予定
- 第2回：2月 予定

- <主な検討・取組事項>
- いきいき健康塾
  - 認知症徘徊模擬訓練
  - 作業部会の取組検証

## 内郷・好間・三和

- 第1回：6月27日開催
- 第2回：11月 予定
- 第3回：3月 予定

- <主な検討・取組事項>
- 認知症地域相談窓口の利用促進
  - 認知症ケアパス作成検討
  - 介護塾・終活講座

## 四倉・久之浜大久

- 第1回：6月20日開催
- 第2回：1月 予定

- <主な検討・取組事項>
- オレンジカフェ
  - よつくら塾
  - 認知症声かけ訓練

## 小川・川前地区

- 第1回：9月 予定
- 第2回：3月 予定

- <主な検討・取組事項>
- 小川寺子屋
  - 認知症カフェ

## 中地域ケア会議の取組み（塾、介護フェア等）について

地区	名称	頻度	今年度予定数
平	他職種連携のつどい パネルディスカッション（予定）	1回/年	1回
小名浜	認知症在宅ケア講演会	1回/年	1回
勿来・田人	介護フェア・講演会	2回/年	2回
常磐・遠野	いきいき健康塾	月1、2回	13回
内郷・好間・三和	介護塾・終活講座	随時 (申込みに応じて)	12回 (申込み数)
四倉・久之浜大久	よつくら塾	月に1回 (5～10月)	6回
小川・川前	小川寺子屋	月1、2回	15回

### 【今後の展開】

塾、介護フェアなどに参加することで、専門的な知識を得られた住民の方々が、その**地域におけるリーダーの役割**を担うことで、圏域全体の意識醸成を図っていく

## ハイリスク者把握に向けたスクリーニング（抽出）

ハイリスク者（体を動かさない状態が続くことによって心身の機能が低下して動けなくなる「廃用症候群」や「生活習慣病」などが悪化する可能性の高い高齢者）を効率的かつ迅速に把握するため、医療や介護保険情報の一部を活用し抽出する。

### 【これまでの経過】

#### ○2次予防事業対象者把握事業（平成28年度まで）

- ・従来のハイリスク者の把握については、65歳以上のうち、介護認定を受けていない方に対し、生活機能評価基本チェックリストを郵送し、返送された者に対して、包括支援センターの職員等による訪問活動による実態把握を行ってきた。  
⇒課題として、返送数の数が多く、実態把握に時間を要す返送がない方へのアプローチは不足

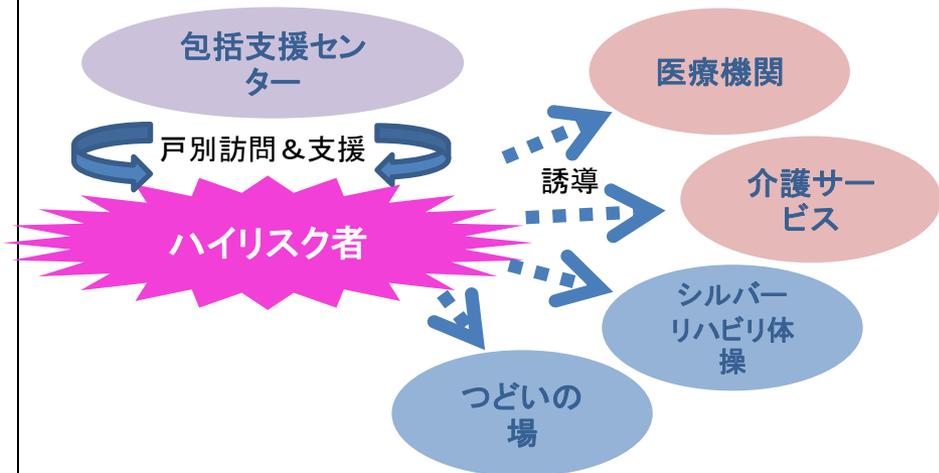
#### ○個人情報審議会（平成30年11月）

- ・真のハイリスク者は、行政機関をはじめ、医療や介護の専門機関等と関わりが希薄な者であると想定されることから、介護認定情報等の目的外利用について審議会に諮り了承。

### 【現状の取組み】（平成31年1月～）

- ・包括支援センター職員による訪問等で実態把握を実施中。
- ※対象者の抽出条件（初回：計298人）  
75歳以上、男性、独居、市民税非課税、介護認定なし、生活保護受給なし

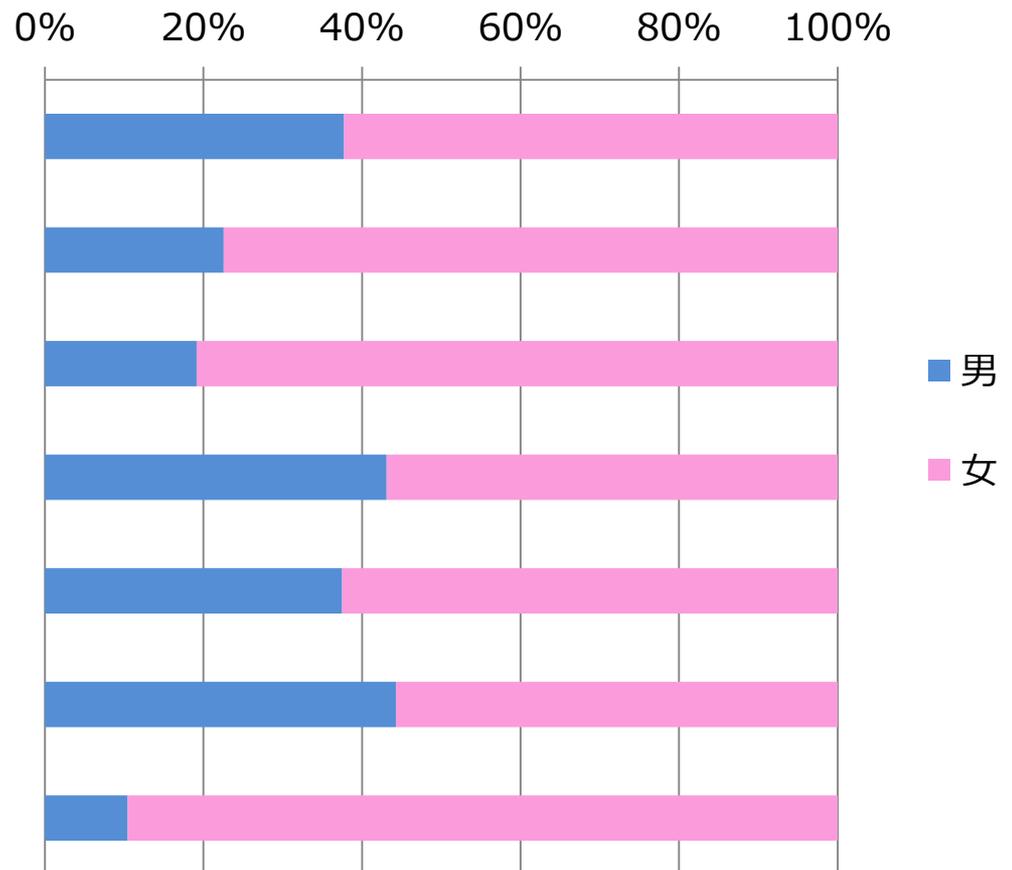
### 【イメージ】



※今後は、初回の抽出結果に伴う実態調査の結果（3月末予定）を踏まえ、2回目の抽出条件を新たに設定するなど、更なるハイリスク者へのアプローチを実施していく。

## ハイリスク者把握に向けたスクリーニング（抽出）

抽出条件	男	女	計
75歳以上	18,345	30,253	48,341
独居	1,823	6,267	8,090
非課税	6,007	25,391	31,398
認定なし	13,456	17,778	31,234
生保なし	17,757	29,601	47,358
介護利用なし	15,958	20,077	36,035
ハイリスク抽出	<b>298</b>	2,552	2,850



抽出した298名に対して、包括支援センターによる個別訪問（既に支援しているケースを除く）を実施。

# ハイリスク者把握に向けたスクリーニング（抽出）

分類	人数
A（緊急対応が必要）	0
<b>B（継続支援が必要）</b>	<b>55</b>
C（相談時に対応が必要）	198
その他（施設入所・転居等）	45
計	298

**適合率**  
**55/298**  
**= 18.5%**

※区分Bの55件中、  
 今回の調査で新たに把握したケース：**35件**

### 【事例】

84歳 男性

H31.3.7 自宅訪問

衣服の汚れあり。自宅尿臭あり。娘の定期的な訪問があることを確認。

⇒3.17自宅内で動けなくなり、娘の支援により医療機関受診し、脱水症状との診断を受ける。

⇒3.20再度訪問、介護申請に至り、現在はデイサービス等のサービスを利用している。

### 【今後の展開】

- ・ハイリスク者の適合率を上げるためのスクリーニング条件の精査
- ・現在のハイリスク者のほか、ハイリスク予備軍（今後、状態が悪くなる可能性の高い人）の抽出方法の精査

## 地域共生社会まちづくりモデル事業

地域共生社会まちづくりモデル事業は、地域共生社会の実現に向けて、高齢者の福祉増進等に資するための取組みのうち、地域課題に対応することを目的に、地域住民等が主体となった先駆的な活動をモデル事業として選定し支援する。

### 【平成30年度選定事業】

- 事業名：いつだれ kitchen
- 運営団体：特定非営利法人 布紗
- 場 所：平上荒川
- 内 容：高齢者はもとより、子どもや障がいのある方も区別することなく、対象者を限定しない常設の居場所づくりを通して、地域課題の解決を目指す
- 選定ポイント
  - ・課題を的確にとらえている
  - ・対象者を限定していない
  - ・常設の居場所の運営
  - ・他の地域でも参考になる
  - ・地域住民とつながるイベントなども検討している
- オープン日  
毎週木曜日 11時くらいから14時くらいまで



発言  
2

※「みんなのたまり場」の取組み状況は、ポータルサイト等での情報発信を行うとともに、令和元年度についても、引き続き、先駆的でモデルとなるハードやソフトの取組みを選定し支援していく。



### CONCEPT

いらっしゃい! 「いっただいねkitchen」へようこそ。ここは、いつでも、だれでも大歓迎の「みんなのお勝手」です。料理を作る人、食べる人、食材を届けてくれる人、人生のベテランも若手も、絶好調のあなたも、最近そうでもないあなたも、いつだって来る者拒まず。だから名前は「いっただいねkitchen」。

まあとにかく、腹が減ったらおいでください。余った食材があったらどんどんお持ちください。何するわけでもないけれど、いつだって、だれだって、母ちゃん自慢の手料理を準備して、あなたのお越しを待っています。

シェアする食堂、いつだれkitchen。

## 1. 食材をシェア!

いつだれkitchenでは、いつでもだれからでも食材を大募集中。作りすぎちゃった野菜。食べきれない頂き物が、美味しい料理に化けます!

できるだけみんなにあったかい食事を届けたいから、食材費も地域の「もったいない」も、みんなで減らそう!



## 2. スペースをシェア!

食堂でもお勝手でもあるけれど、いつだれkitchenは、いつでもだれでも使えるあなたの「居場所」です。食べなくたっていい。おしゃべりも打ち合わせもしなくたっていい(もちろんしてもいい)。ただ、ここにいてくれるだけでいいんですよ。



## 3. 悩み事をシェア!

人間だれしも生きてりゃあ嫌なことがある。けれど、身近なところに相談できる場所がない。だから、いつだれkitchenは、悩み事だって持ち込んで欲しいんです。こんなことに困ってるんだ! どこに相談していいかわからない! ご飯のついでにさあどうぞ。

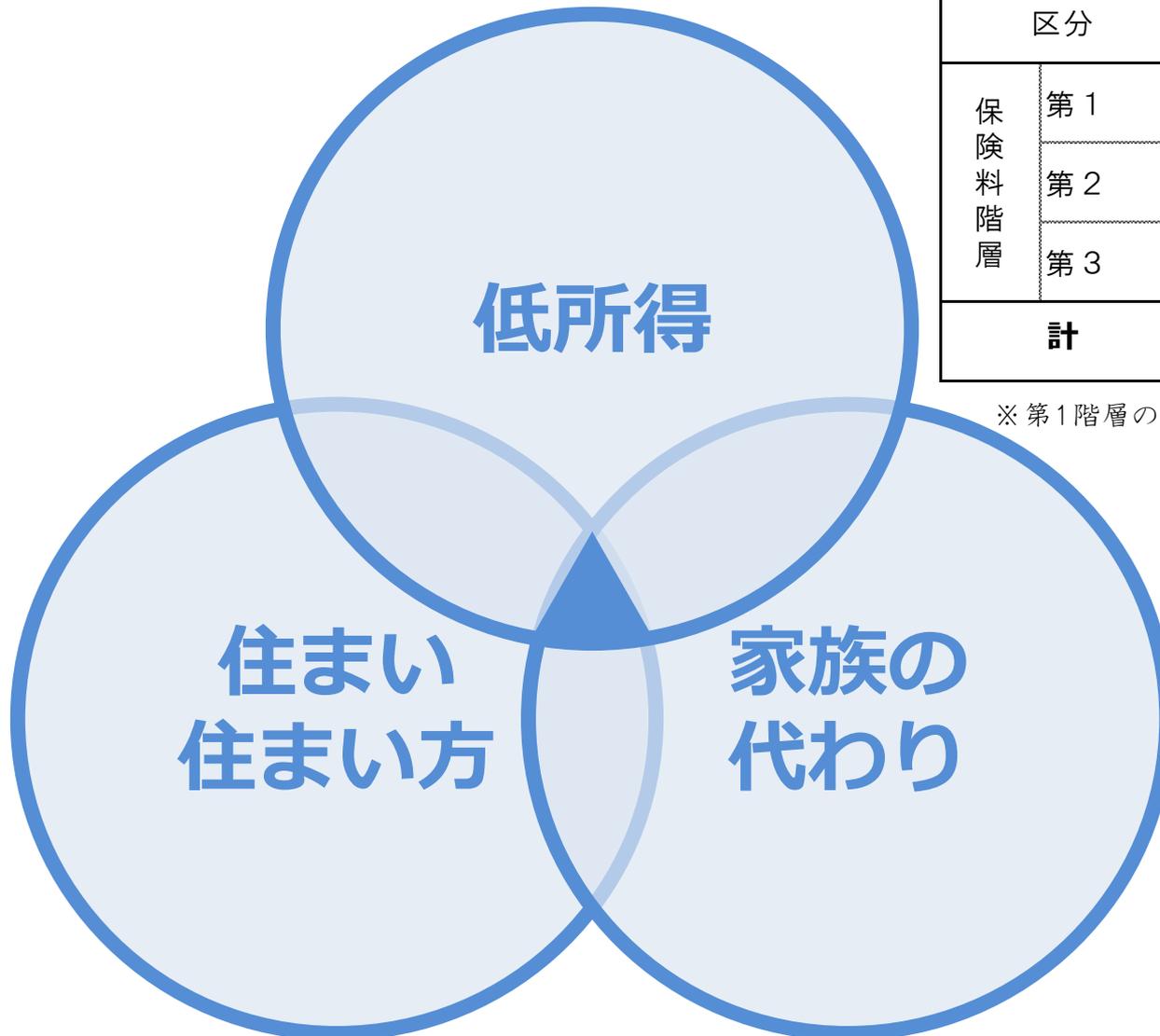






## 低所得で、家族がいない方の住まいの問題

## ＜基礎的データ＞



区分		総数	単身者	割合
保険料階層	第1	14,385	9,322	64.8%
	第2	6,985	3,724	53.3%
	第3	6,167	2,308	37.4%
計		<b>27,537</b>	<b>15,354</b>	<b>55.8%</b>

※ 第1階層のうち、生保受給(2,050人 単身1,498人)を除く

住まいを移る際や入院・入所の際に、「身元引受人」や「連帯保証人」が確保できないケースが増えてきているし、今後、更に増加が予想される。

# 入居・入所、葬送等支援事業について

これまで親族が担ってきた入居（入所）保証、葬送支援等について、親族がいない場合や、親族はいるが親族外による身元保証を希望する際に、**事前に本人の意思を尊重しながら**、終末期を含め、本人が安心して暮らし続けることができるよう支援するもの。

## ○対象者（負担：500円/月）

市内に居住する次の全てを満たす方

- 1 包括支援センター等の機関が何等かの支援を行っている高齢者または障がい者
- 2 本人の前年の合計所得金額が125万円以下
- 3 契約締結が可能（後見制度も可）

## ○支援内容

- ① 入居・入所保証
- ② 葬送支援（火葬、埋葬）

※①、②に関連して、電話や訪問による安否確認や、エンディングノート等による意思確認を行う

## 【支援内容に対する主な役割（検討中）】

団体	主な役割
NPO法人地域福祉ネットワークいわき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居・入所に係る連帯保証</li> <li>・死亡時や緊急時の対応</li> <li>・契約事務支援</li> <li>・事務局機能</li> </ul>
市 (介護保険課、地区セン、権利擁護センター、障がい、地域包括など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期に係る意思表示確認支援</li> <li>・死亡時や緊急時の対応</li> <li>・後見制度利用に係る支援</li> <li>・庁内関係部署との連携調整</li> </ul>
構成員 (社福法人、不動産業者、葬祭業者、宗教法人など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織による定期会議への出席</li> <li>・事業運営のための金銭支援（会費）</li> <li>・対象者に対する定期的な安否確認</li> </ul>
その他 (個人、民間企業など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営のための金銭支援（寄附）</li> <li>・その他、安否確認、終活アドバイス、エンディングノート作成機会の確保など</li> </ul>

## 相談・契約件数（目的別）

※R1.6.30時点

	入居	入所	葬送	その他	計
相談件数	12	17	1	3	33
契約件数	2	5	0	0	7

## ①介護予防・生活支援

- ・つどいの場
- ・ケアマネジメント支援会議
- ・総合事業  
短期集中予防サービス
- ・住民支え合い活動



介護予防にも、生活支援にも「通いの場」は重要な地域の資源

## 介護 予防

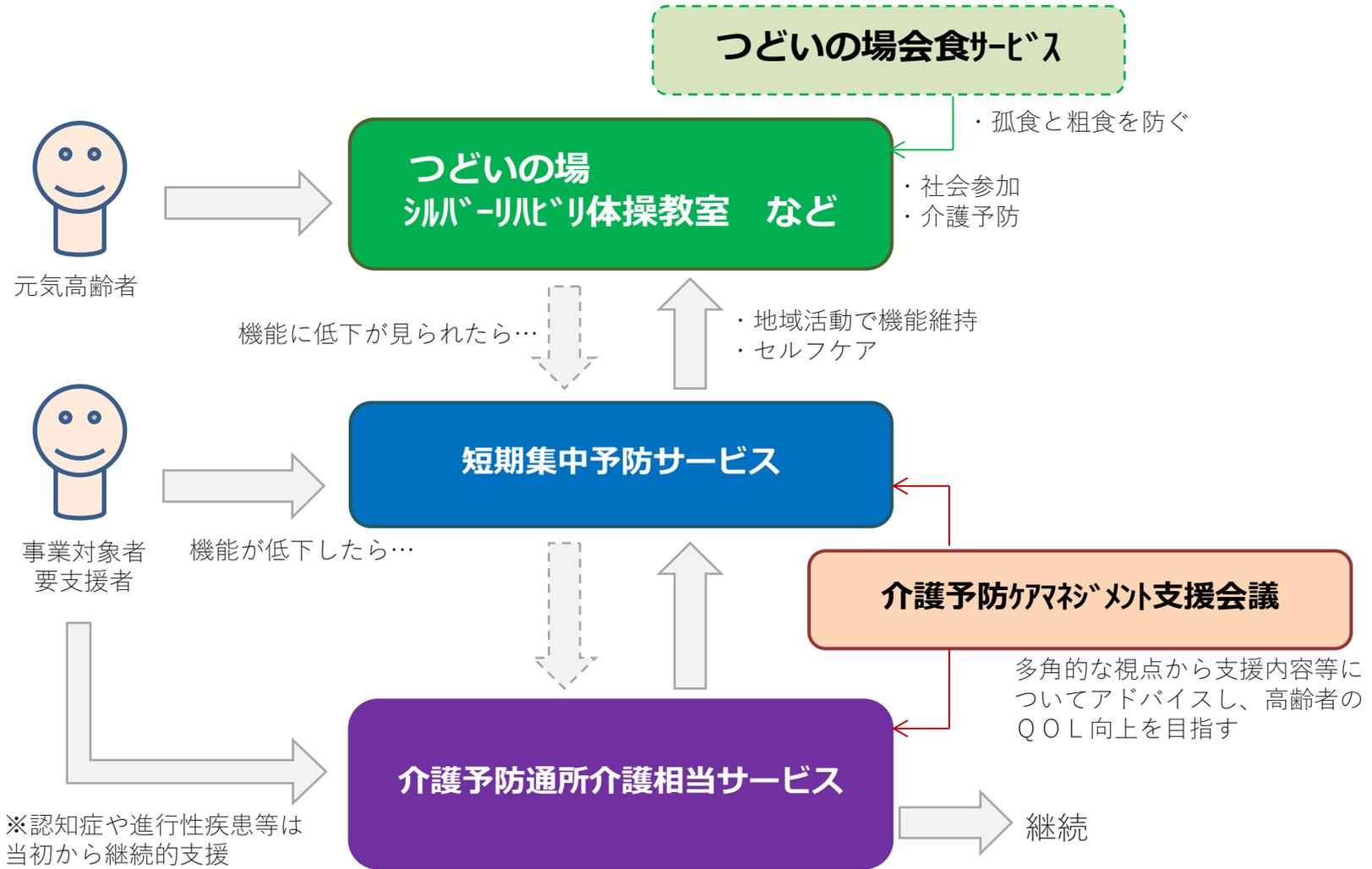
本人の**自発的**な**参加意欲**に基づく、**継続性**のある、  
効果的な**介護予防**を実施していくこと

## 通いの場 (つどいの場)

## 生活 支援

地域における**自立**した**日常生活**を実現するために、  
地域の**多様な主体**による**多様な生活支援**を地域の中で確保し、  
**介護専門職**は身体介護を中心とした**中重度支援**に**重点化**を進める。

# 本市の介護予防体系のイメージ



## つどいの場の現状について

	H29.3 ※参考	H30.3 (a)	H31.3 (b)	差 (b)-(a)
つどいの場の数	<b>355ヶ所</b>	<b>413ヶ所</b>	<u>442ヶ所</u>	<u>29ヶ所</u>
参加実人数	<b>7,831人</b>	<b>9,033人</b>	<u>9,319人</u>	<u>286人</u>

※事業活用団体 H30 : **272**団体、H31 : **264**団体  
 専門職派遣 H30 : **178**件、R1 : **216**件(予定)

高齢者人口 97,260人 (H31.3月末)  
 に対し **9.58%**

国目標 : 2020年度末までに参加率 **6%**  
 (社会保障・働き方改革本部「健康寿命延伸プラン」)

引き続き「開催頻度の増」「生活支援の創出」に向けて支援していく

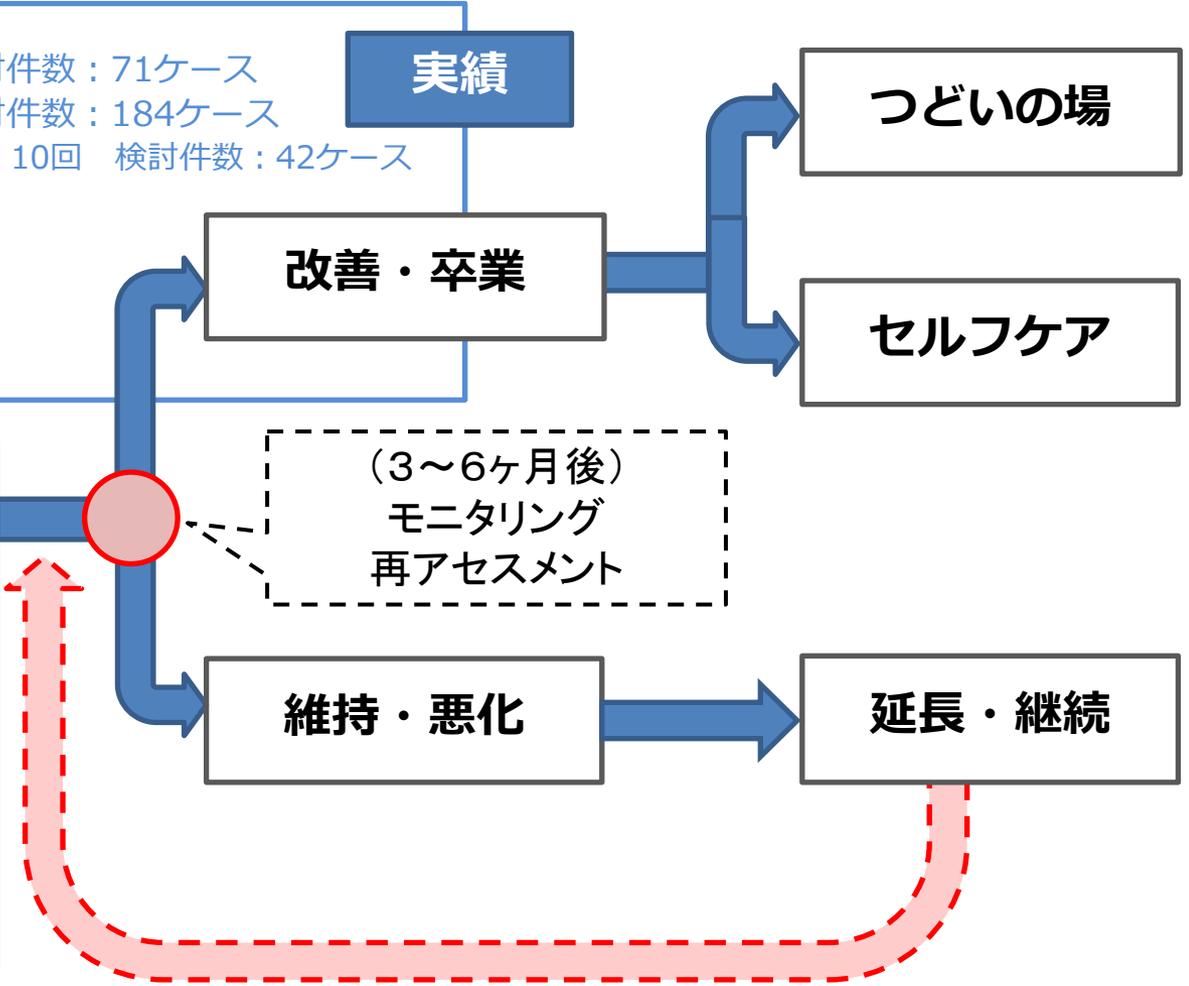
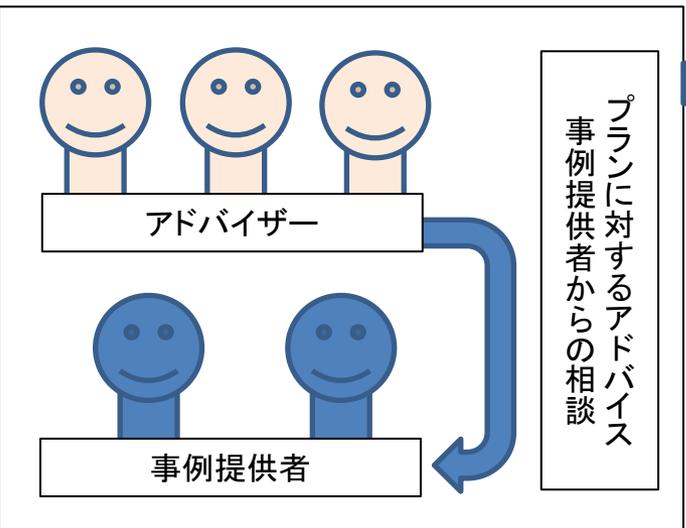
# ケアマネジメント支援会議 (平成29年10月より開始)

高齢者の生活行為の課題等を明らかにし、自立支援に資するケアプラン作成と支援を行うため、多職種からの専門的な助言を活かしたケアマネジメントを実施するもの。

- 平成29年度 会議開催数：20回 検討件数：71ケース
- 平成30年度 会議開催数：47回 検討件数：184ケース
- 令和元年度（6月末現在） 会議開催数：10回 検討件数：42ケース

令和元年6月末現在合計

- 会議開催数 77回
- 検討件数 297ケース



## 会議を実施することでみえてきた課題と対応策

- ・介護事業所の指導力・スキルアップの必要性
- ・プラン作成者のケアマネジメント力向上の必要性

### 対応策 1

専門職から得られたアドバイスについてケアプラン作成者・介護事業所に会議終了後、アドバイスをどのように活かしたか、なぜ活かせなかったのか確認作業を実施



会議後3ヶ月を目安に、事例提供者に結果確認票を提出して頂く。

### 対応策 2

次年度以降、専門職からのアドバイスをより実践的に取り入れてもらえるよう介護関係者を対象に専門職を講師とした研修会の開催を検討する。

## 総合事業の報酬体系の課題と見直しの方向性

総合事業開始後、市独自のサービスを随時導入するなど、利用者の状態像や環境に応じた柔軟な介護予防支援が提供できる体制構築に向けた検討を進めているが、総合事業の報酬体系において課題がある。

### (1) 本市のサービス体系

種別	サービス名	報酬体系	単位
訪問型 サービス	介護予防訪問介護相当サービス (従来の基準)	包括報酬 (月額固定)	①週1回程度 1,168単位/月額 ②週2回程度 2,335単位/月額 ③週2回以上 3,704単位/月額 (③は、要支援2のみ利用可)
	生活援助サービス(市独自)	出来高報酬 (1回あたり)	1回あたり 225単位 (要支援1・2共通)
	訪問型短期集中予防サービス(市独自) ・栄養改善、口腔機能改善プログラム	直営	なし
通所型 サービス	介護予防通所介護相当サービス (従来の基準)	包括報酬 (月額固定)	①要支援1 1,647単位/月額 ②要支援2 3,377単位/月額
	通所型短期集中予防サービス(市独自) ・生活行為改善プログラム	出来高報酬 (1回あたり)	1回あたり 405単位 (要支援1・2共通)
	つどいの場創出支援事業(市独自)	住民主体の 活動	活動費の一部補助

## (2) 総合事業の報酬体系の課題

### ① 市独自の多様なサービスとの併用に関する課題

現行の月額包括報酬の場合、同型サービスの複数事業所の利用ができない。

#### ○ 週2回の利用が必要な方が、定員の関係で週1回の利用しかできない場合

→ 出来高報酬にすると、通所型サービス事業所の併用により、週2回の機能訓練が可能になる。

#### ○ 生活援助サービス利用者が、生活機能の維持・改善のためヘルパーと一緒に調理（身体介護）をする必要がある場合

→ 出来高報酬にすると、訪問型サービスの併用により、掃除（生活援助サービス）とヘルパーとの調理（介護予防訪問介護相当サービス）が実施可能になる。

### ② 利用者負担額の課題

現行の月額包括報酬の場合、実際の利用回数に係わらず、月額固定の支払いとなっている。

#### ○ 要支援2の週1回程度利用者への配慮

要支援2の方が介護予防通所介護相当サービスを利用する場合、週2回の利用を目安に月額包括報酬（3,377単位）が設定されているが、要支援2の方が週1回の利用した場合でも、3,377単位の月額包括報酬となる。

こうした方は、H29.10～H30.9において利用延べ人数の32.3%となっている。

#### ○ 利用者負担割合の増への配慮

従来の原則1割負担に加え、平成27年8月から所得に応じて2割負担の区分が設けられ、

さらに、平成30年8月には3割負担の区分が導入された。利用者負担の増が過大になることが懸念される。

### (3) 今後の方向性

本年10月より、本市の介護予防訪問介護相当サービス及び介護予防通所介護相当サービスの報酬体系を、現行の月額包括報酬から出来高報酬に見直す方向で検討中。

# 通所型短期集中予防サービスの状況

専門職による、個別の機能改善プログラムを実施するサービス

何のために、どんな訓練を行うのか 目的を持って個別の機能改善プログラムを実施



## ○ショートステイ未来月見台における支援実績（H31.3月末時点）

利用者数	ケアプラン 目標達成者	目標達成率
50名	45名	90.0%

地域活動移行率  
70%

項目	人数	支援終了後の つどいの場等 地域活動移行者数
事業対象者	29名	22名
要支援認定者	21名	13名
合計	50名	35名

地域活動移行先	人数
シルバーリハビリ体操教室	15
つどいの場	14
地域のサロン	8
民間ジム	5
就労	3
ボランティア	3
生涯学習	2

※複数個所の参加を含む。

### 【支援の特色】

- ・目標を自分で書いて壁に掲示
- ・セルフケア、地域活動の啓発
- ・利用者宅でのアセスメント
- ・セルフトレーニング指導
- ・生活記録シートの活用
- ・セルフケア記録シートの活用
- ・地域資源の情報収集、提供
- ・卒業式の開催 など

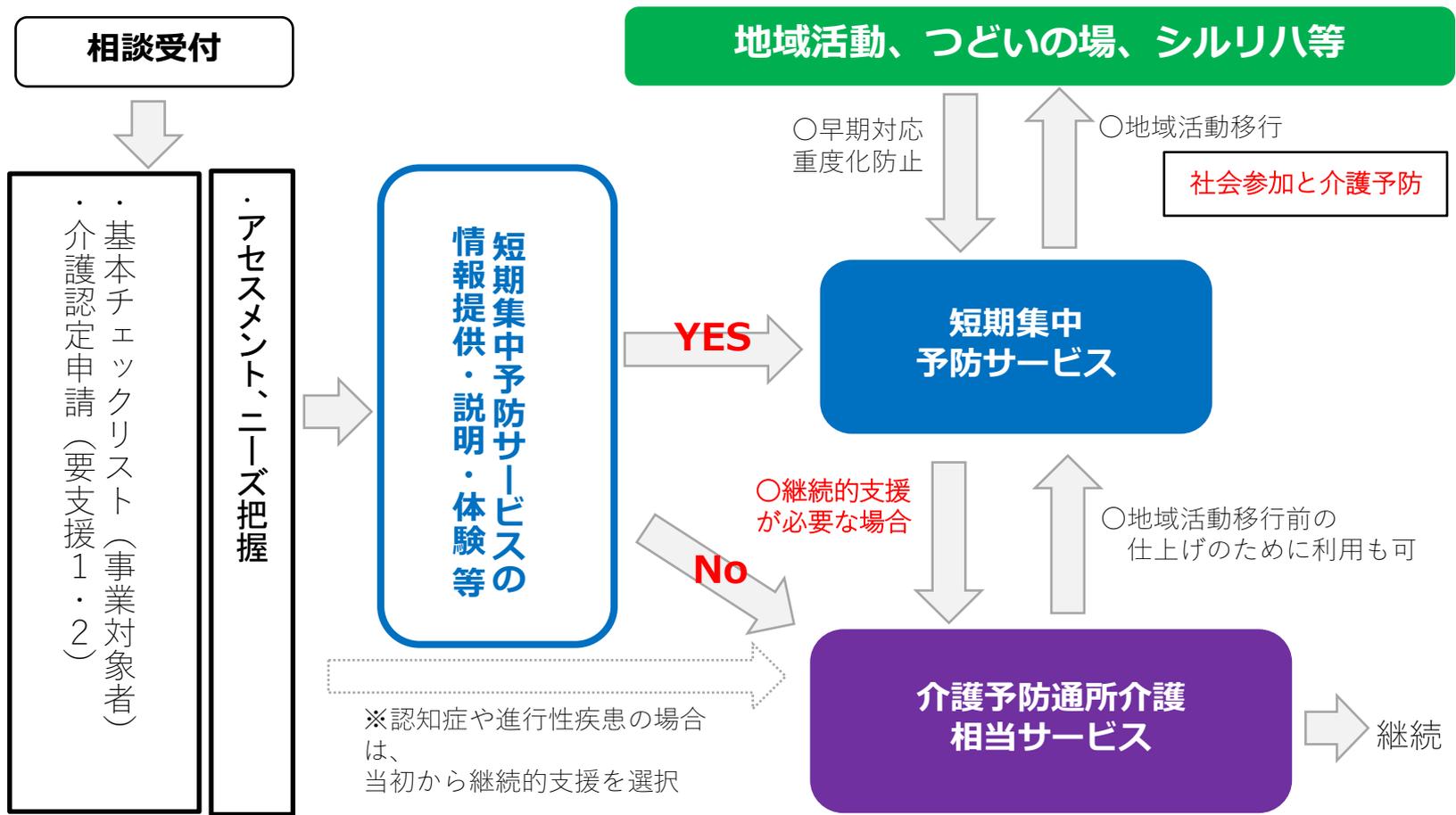


機能訓練の風景

地域活動への参加を促し、  
継続的に参加することにより、  
改善した状態を維持する

# 通所型短期集中予防サービスの位置づけ

これまでの成果を踏まえ、短期集中予防サービスを、機能訓練の入り口とします。  
よって、事業所参入を促進するため、今後、インセンティブを導入するなど、通所型短期集中予防サービスの見直しを検討します。



いわき市住民支え合い活動づくり事業

# 支え合いのススメ

## SASAE AI NO SUSUME



「ありがとう」がめぐる地域に!

### いわき市住民支え合い活動づくり事業とは

ひとり暮らしや高齢者だけの世帯がますます多くなっている現代、住み慣れた町ですと暮らしていくためには、「ご近所同士の支え合い」が必要。それはわかっているけれど、どうやって声をかけていいかわからない。どんな活動したらいいかわからない。そんな不安にお応えしながら、皆さんの暮らす地区で「支え合い」が行われていくよう、様々な支援をする事業です。

例えば、こんなことから!!

話し相手、ごみ出し、片づけ、つどいの場の開催、草刈り、買い物代行、書類代筆 など  
暮らしの中のちょっとした困りごとのお手伝いなど。

# 22

現在、市内22地区で、住民支え合い活動が行われています。(H31.3.1時点)

支え合い活動に興味のある方は、お住まいの地区の社会福祉協議会(☎は裏面にあります)まで、どうぞお気軽にご相談ください。

困ったなあ…



話し相手がほしいな… ゴミ出しができないな…

地域の力になりたい



退職後は時間があるな 高齢の方を助けたいな

### 「ありがとう」がめぐる地域に!



支え合うことで「ありがとう」がめぐり、地域の元気、暮らしの元気につながります

# 住民支え合い活動×いわき市議会

いわき市議会教育福祉常任委員会委員による議会報告会

【日 時】令和元年5月28日(火) 10時～

【場 所】いわき市社会福祉協議会 5階会議室

【テーマ】「住民支え合い活動づくり事業に係る担い手の確保について」

【参加者】議員9名、社協職員7名、地域で活動を行っているサポーター 14名



## 【主な意見】

- ・いきいきシニアボランティアポイントの年齢制限（65歳以上）を撤廃するとよい。
- ・住民支え合い活動の広報の仕方を工夫する。

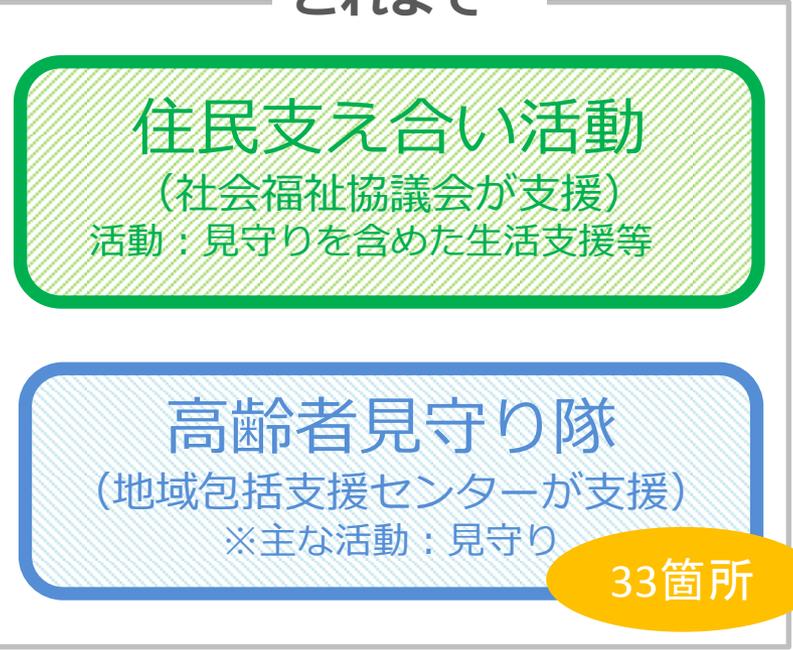
## 支え合い活動団体（第3層協議体） R1年度（4～5月）新規地区

# 22→29地区

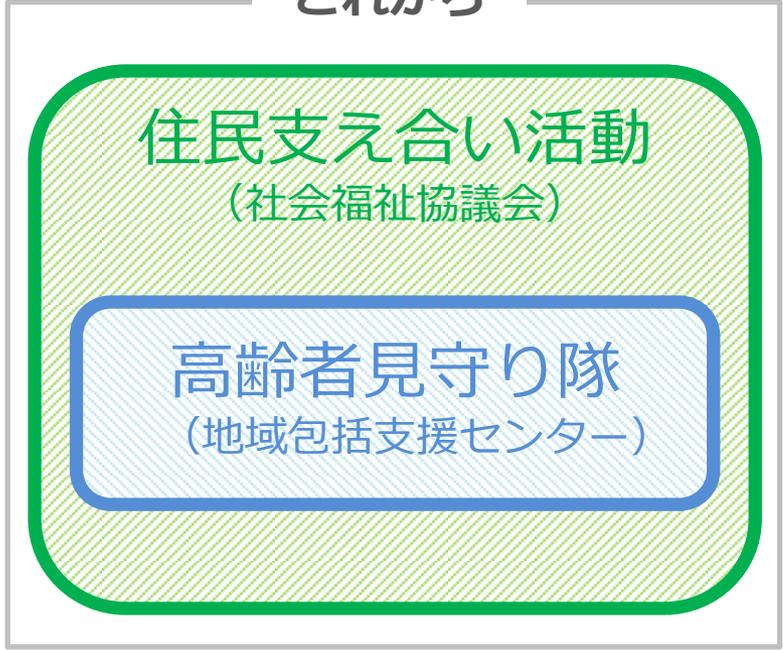
No	地区	申込団体／代表者	実施地区 世帯数／人口	実施内容
1		深山田行政区 (深山田なごみの輪)	深山田行政区 216世帯 638人	独居高齢者や高齢者のみ世帯へ定期的な声掛け活動を実施し、困り事を把握し、その他の生活支援サービスについては、できる範囲で支援を行っていききたい。
2		入遠野2区 (西根行政区安全サポート)	西根地区 26世帯 75人	これまでの活動を継続し、独居高齢者や高齢者のみの世帯への定期的な声掛け活動を実施し、困り事相談を把握すると共に、相談しやすい環境づくりを目指す。
3	遠野	入遠野2区 (前田地区)	前田地区 43世帯 108人	地区内の高齢者等の情報を共有し、対応が必要な課題が出てきた際には、適宜対応したい。また、定期的な声掛け活動を実施したい。
4		上遠野区 (結の和)	上遠野区① 151世帯	地区内の状況を共有し、支援策を皆で検討したい。また、一人暮らし高齢者や子供へあいさつ、声掛け、必要な生活支援、関係機関への情報提供等に取り組みたい。
5		上遠野区 (やまびこ会)	上遠野区② 149世帯	地区内の状況を共有し、協議、行動、解決へと対応していききたい。また、対象の高齢者へ月1回定期的な声掛けを行い、困りごとを把握していききたい。
6	田人	石住行政区 (石住支え合い隊)	石住行政区 54世帯 120人	地区内の一人暮らし高齢者の困りごとを調査し、必要な支援策を検討したい。また、買物代行、話し相手悩みの相談、生活環境の手伝い（庭の除草等）、健康管理に関すること等を行いたい。
7	川前	川前5区 (沢尻地区)	沢尻地区 25世帯 75人	独居高齢者や高齢者のみ世帯等への声掛け活動を実施し、必要な支援策を検討していききたい。また、定期的なサロンも開催し、住民同士の交流を深めていききたい。

# 「住民支え合い活動」と「高齢者見守り隊」

これまで



これから



## 【支え合い活動を行う見守り隊】

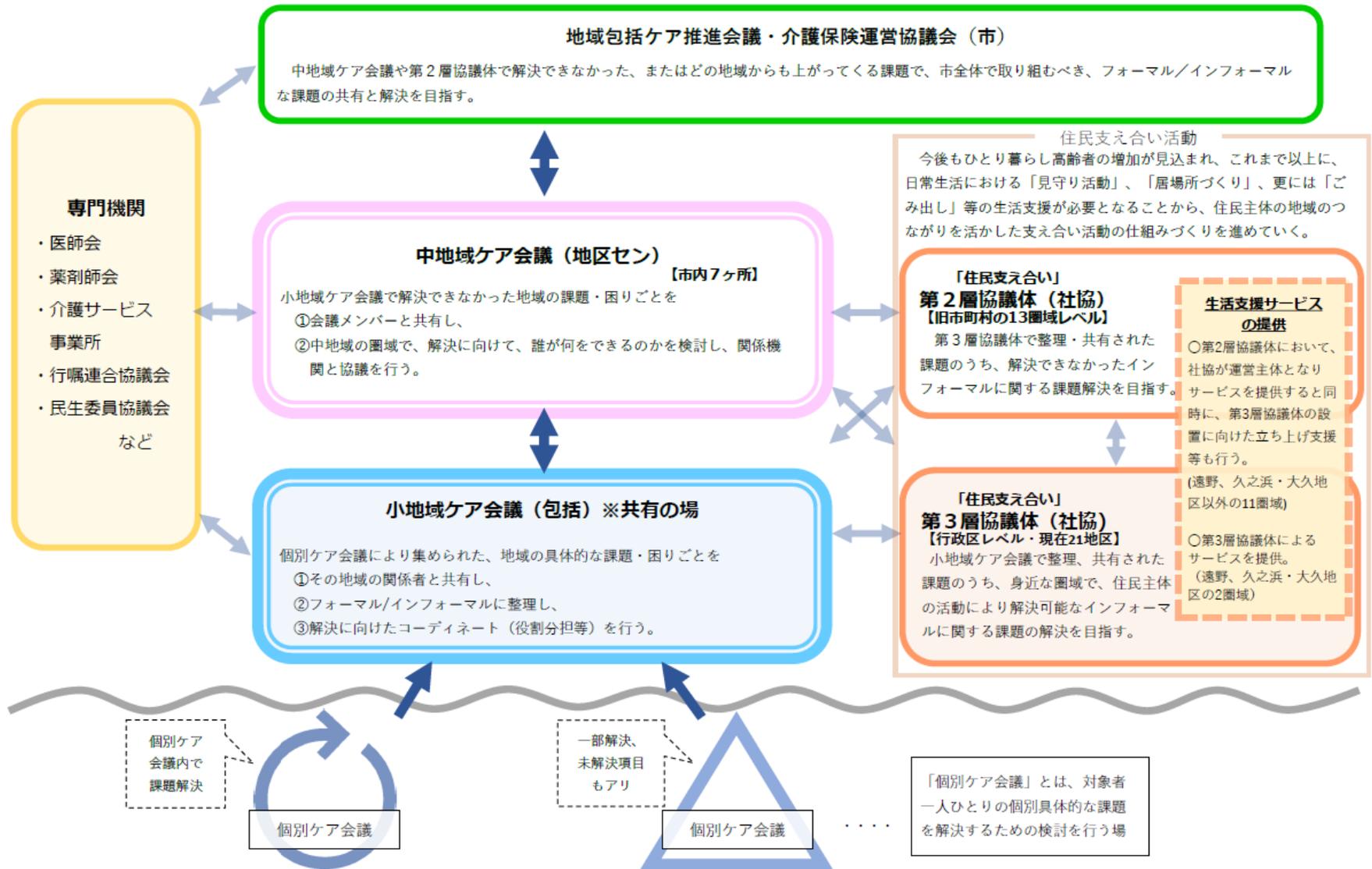
- ・新町地区
- ・南台
- ・泉玉露地区
- ・田代沼平
- ・深山田



## 【今後の展開】

それぞれの見守り隊の意向を踏まえたうえで、見守りの域を越えた活動を行っていただくよう、働きかけ

# 地域ケア会議と協議体の関係性 (イメージ)



ケア会議の主要テーマ：「要介護2で独居の方が (本人が希望する場合) 在宅で暮らせる」の課題と解決

# 支え合い活動団体 (第2層協議体)

H31.4.1~事業開始

## 住民支え合い生活支援サービス

☆ お互いさまの仕組みづくり ☆

いわき市では、地域住民が共に支え合い・助け合うための仕組みづくりを進めています。お困りごとがある方、困っている方のお手伝いをしたい方(サポーター)は、いわき市社会福祉協議会までお気軽にご相談ください。

お困りごとはありませんか?

話し相手がほしいわ



電球交換ができないな

ゴミ出しができないな



支え合い活動を試してみませんか?

支え合いサポーターを募集します

65歳以上のサポーターの方は、「いわき市いきいきシニアボランティアポイント事業」に登録申込みができます。

お困りごとのご相談とサポーター登録は、お住まいの地域のいわき市社会福祉協議会各地区協議会でお受けしています

平地区協議会	22-6441	四倉地区協議会	32-2114 代	三和地区協議会	86-2111 代
小名浜地区協議会	54-2111 代	遠野地区協議会	89-2111 代	田人地区協議会	69-2111 代
勿来地区協議会	63-2111 代	小川地区協議会	83-1111 代	川前地区協議会	84-2111 代
常磐地区協議会	43-2111 代	好間地区協議会	36-2221 代	久之浜・大久地区協議会	82-2111 代
内郷地区協議会	27-8707				

※ 受付時間は、平日の午前9時～午後5時までとし、国民の祝日に関する法律に規定する休日並びに1月2日、3日及び12月29日から12月31日まで、土曜日及び日曜日を除きます。

《住民支え合い生活支援サービスは、いわき市から事業委託を受けて、いわき市社会福祉協議会が実施しています。》

発行 いわき市社会福祉協議会 いわき市(担当課:地域包括ケア推進課)

## 住民支え合い生活支援サービスの仕組み



地区名	相談件数	相談内容
平	6	ゴミ出し2件・買物代行1件・電球交換1件 窓拭き1件・散歩の付き添い1件
小名浜	3	草引き3件
勿来	2	ゴミ出し1件・片付け1件
常磐	8	話し相手2件・ゴミ出し1件・片付け2件 草引き1件・障子張り1件・衣類整理1件
内郷	4	話し相手1件・ゴミ出し3件
四倉	1	サービスの問い合わせ1件
小川	0	
好間	2	ゴミ出し1件・電球交換1件
三和	0	
田人	0	
川前	0	
合計	26件	

## いきいきシニアボランティアポイント事業

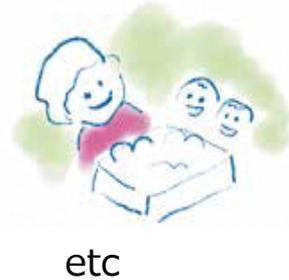
生きがいつくり、介護予防等を目的として、65歳以上の方を対象に、市が指定するボランティア活動に対してポイントを付与し、ポイントに応じて商品と交換する事業。

### 【各年度実績】

各年度	参加人数	商品還元者数	商品還元率	受入機関数
H28年度	494名	183名	37.1%	35箇所
H29年度	678名	389名	57.4%	108箇所
H30年度	799名	576名	72.1%	142箇所
R元年度 ※6.30時点				

交換した商品もご自身の想いで自由に

- 頑張った自分のご褒美に
- いつもお世話になってる家族のために
- 一緒にがんばった仲間と交換して楽しむ
- 65歳未満の方も、組織みんなでシェア



### 【H30年度商品交換数】 ※全商品○品目中 上位10品目

順位	内容	提供事業所	Pt数	交換数
1	焼き菓子セット	障がい者福祉連絡協議会	10Pt	101
2	いわきライキ (5kg×3袋)	J A 福島さくら	50Pt	83
3	海産物詰め合わせ	いわきら・ら・ミュウ	50Pt	78
4	いわきら・ら・ミュウ商品券	いわきら・ら・ミュウ	50Pt	55
5	ラスクセット	障がい者福祉連絡協議会	10Pt	53
6	いわきライキ (5kg×2袋)	J A 福島さくら	30Pt	49
7	大満足常磐ものセット	いわき観光まちづくりビューロー	50Pt	36
8	新舞子ハイツ利用券	勤労福祉事業団	10Pt	34
9	鬼ヶ城利用券	いわきの里鬼ヶ城	10Pt	32
10	ねぎドレッシング	J A 福島さくら	20Pt	27

### 商品イメージ



### ① 医療と介護の連携

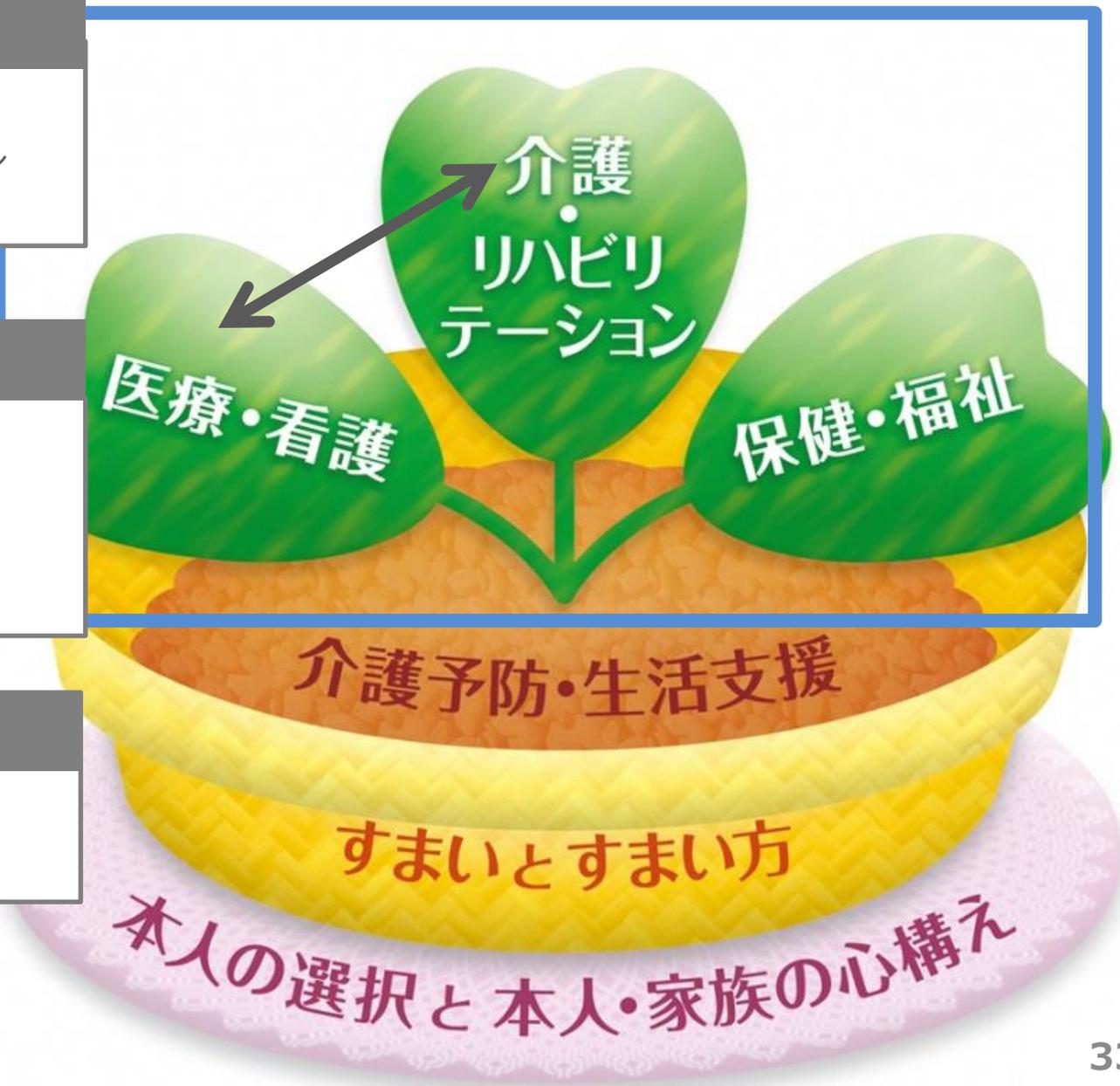
- ・ 退院調整ルール
- ・ 在宅医療・介護連携支援センターの設置

### ② 認知症

- ・ 認知症初期集中支援チーム
- ・ オレンジカフェ
- ・ VR認知症体験会
- ・ いわき市介護事業所協議会

### ③ 介護・保健

- ・ 事業所向け研修会
- ・ 健康長寿へ向けた取り組み



ときどき入院  
ほぼ在宅



## 退院時、病院→ケアマネ連絡の有無アンケートの結果

### いわき市

ルール策定前 (H28. 7・8月)	ルール運用 半年後 (H29. 7・8月)	ルール運用 1年半後 (H30. 7・8月)
53.6%	⇒ 62.8%	⇒ 71.6%

### 県中

ルール策定前 (H27. 5月)	ルール運用 半年後 (H28. 8月)	ルール運用 1年半後 (H29. 8月)
70.9%	⇒ 76.4%	⇒ 81.4%

病院とケアマネがさらに連携を進めるために、引き続き、アンケート調査の実施や運用評価会議を開催

# いわき市在宅医療・介護連携支援センターについて

## 1 設置目的

地域の医療・介護関係者や地域包括支援センターから、在宅医療・介護連携に関する相談等を受け付け、連携調整・情報提供等により、その対応を支援する。

## 2 主な業務内容

- (1) 医療・介護関係者からの在宅医療等に関する相談受付
- (2) 医療・介護関係者への研修
- (3) 地域住民への在宅医療・介護に関する情報の普及啓発
- (4) いわき医療圏退院調整ルールの利用評価 等

## 3 設置場所

市総合保健福祉センター 2階

## 4 委託先

いわき市医師会

## 5 業務開始日

平成31年4月1日～

## 6 配置人員

2名 (医療リハビリカーの実務経験のある社会福祉士1名)  
(事務職1名)

## 7 相談受付実績

5月：3件 6月：4件

内容：自立歩行困難な高齢単身者の退院後の在宅生活に向けた相談など

医療・介護関係者の皆様へ

## いわき市 在宅医療・介護 連携支援センター

～医療と介護をつなぐかけ橋として設けられた相談窓口です～

平成31年4月1日に地域の医療機関や介護関係者の多職種連携を支援するための相談窓口として、いわき市医師会がいわき市からの委託を受け、いわき市総合保健福祉センター内に開設致しました。

「いわき市在宅医療・介護連携支援センター」は、医療、福祉、介護の関係者からの在宅医療に関する相談窓口で、医療・介護連携について実務経験を有する看護師・介護支援専門員、社会福祉士が相談に応じます。



**医療 × 介護**

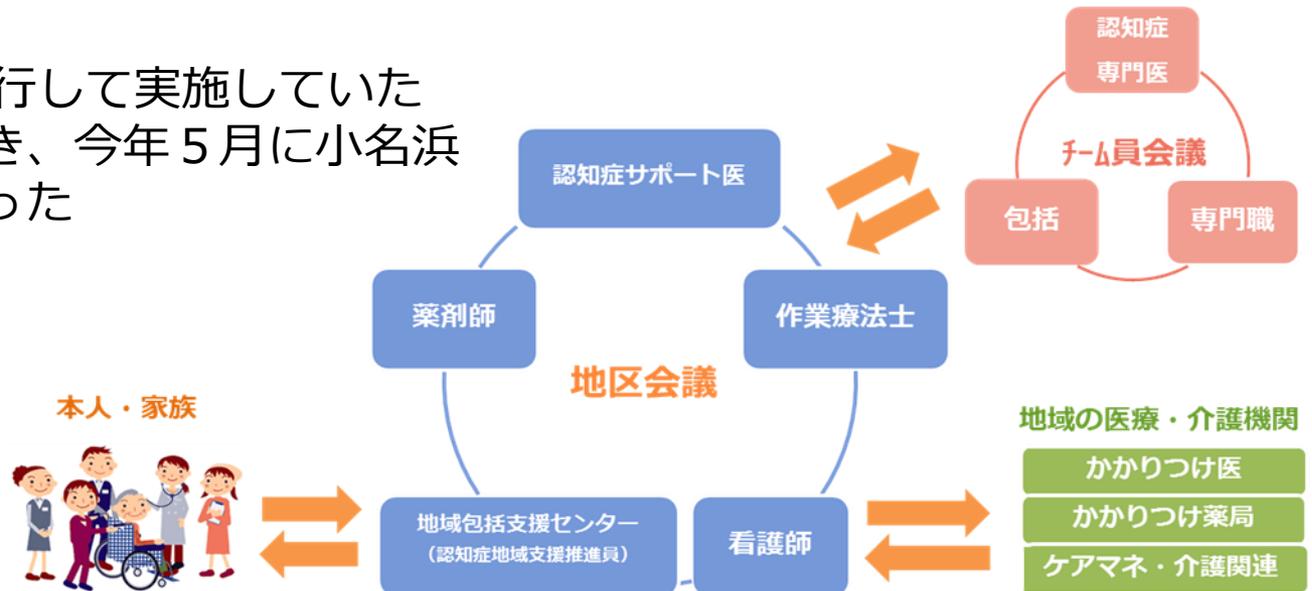
お問い合わせ先 ● [相談受付] 月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 9時30分～17時  
[電話受付] 0246-27-8579 [FAX] 0246-27-8581  
[LL] 所 973-8408 いわき市内野高城町四方木191 いわき市総合保健福祉センター内 2階

## 認知症初期集中支援チームの実績と評価

- ・ 取扱件数の増に伴い、訪問数も増加
- ・ チーム結成3年目を迎え、平均支援期間は短縮の傾向

年度	新規件数	平均支援期間	のべ訪問数	会議開催数
平成28年度	4件	10.00月	15回	7回
平成29年度	13件	7.16月	44回	8回
平成30年度	22件	4.78月	76回	21回

H30年度から先行して実施していた平地区会議に続き、今年5月に小名浜地区会議が始まった



## 認知症カフェ事業「オレンジカフェ以和貴」の新規開設

認知症の方とその家族が、認知症によって生じた生活の変化・混乱、不安感等を、同じ立場の方と共有・共感することで解消を図るほか、専門職による相談や、認知症の正しい理解の普及啓発と地域の方の交流の場として実施するもの。

市内9か所目となるオレンジカフェが  
好間地区の「サンシャインよしま」で始まります！



【オープン予定日時】

8月23日(金) 13:30～

※参加費無料

【9月以降の開催について】

毎月第3金曜 13:30～15:30

認知症や介護に関する相談ほか、  
看護師による血圧測定なども実施予定

この「のぼり」が目印です →



## 市議会議員等を対象としたVR認知症体験会の開催

認知症になっても安心して暮らせる地域を実現するため、**市議会議員**及び**市幹部職員**を対象に認知症当事者の世界を疑似体験できるVR認知症体験会を開催し、今後の市政や施策推進の一助となることを目的とするもの。

【日時】 令和元年7月19日(金)  
市幹部職員 10:00～11:30  
市議会議員 13:30～15:00  
【会場】 市役所本庁舎、議会棟



認知症施策推進大綱（R1.6.18 認知症施策推進関係閣僚会議）

### 『認知症当事者の視点に立った**認知症バリアフリー**の推進』



医療福祉分野だけでなく認知症当事者の「生活」にかかわる社会全体が一丸となって取り組む必要がある

## いわき市介護事業所協議会（高齢者生活安全部会より）

連絡組織を持たない「訪問介護事業所」「通所介護事業所」も含めて、市内のすべての介護事業者が参加できる組織として平成30年7月6日に結成。横のつながりを作り、いわき市の介護事業全体のレベルアップを図る。

### 1周年に合わせて全体会議を開催

【日時】 令和元年7月5日(金) 18:30～20:00

【会場】 総合保健福祉センター 多目的ホール

【内容】 ・各分科会の昨年度の活動報告と今年度の予定  
・各分科会の開催  
・研修講演（認知症初期集中支援チームについて）



### 各分科会の参加数（R1.7.1時点）

- 訪問介護事業所分科会 16事業所
- 通所介護事業所分科会 30事業所
- 認知症サポート部会 23事業所



## 介護事業者向けマネジメントスクール（仮）

平成31年度厚生労働省補助事業  
介護のしごと魅力発信事業

## 介護事業者向けマネジメントスクール

「一人ひとりの力を最大限に引き出し、職場としての魅力を発見し、  
発信するための介護マネジメント基礎知識・実践支援のための研修」

### ▶背景

採用やスタッフの定着には、経営者や現場マネージャーの意識改革やマネジメントスキルが重要です。しかし、介護事業者の大半を占める中小規模の事業者では、人員不足から管理職自らが現場作業に業務の大半を使っているため、マネジメントの重要性がわかっていても新たな採用戦略や人材育成力に着手できないというのが現状があります。このような現状が、コミュニケーション等のすれ違いで、若手職員のやる気をそがれ、結果的に離職に繋がったり、現場介護職の介護に対する思いと所属する介護事業者の運営方針のすれ違いによる離職など本来回避できるミスマッチが発生しているケースもよくあります。

このような背景に対し、介護業界全体の力を結束すべく、平成31年度厚生労働省補助事業である「介護のしごと魅力発信等事業」の採択を受け、今年度、介護事業者向けのマネジメントスクールの試験的な実施を行なっていきます。

### ▶詳細

- ・ 目的：介護の魅力発信を目的とし事業者単位ごとの介護管理者を対象としたマネジメント基礎能力の向上
- ・ 対象者：介護管理職
- ・ 研修時間：4時間程度
- ・ 場所：全国10地域
- ・ 研修参加費：1事業者1万円 参加者は3名まで

## 介護のしごとと魅力発信事業

本事業は、介護のしごとの魅力を伝え、福祉・介護に対して抱いているイメージを向上させるために厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 マンパワー企画係が実施している平成31年度厚生労働省補助事業である「介護のしごとと魅力発信等事業」と連動しています。「介護のしごとと魅力発信等事業」の全6事業のうち、本事業は「ターゲット別魅力情報発信事業(介護事業者向け)」を対象とした事業として補助を受けています。

事業名	事業の目的
1 福祉・介護の体験型・参加型イベント実施事業	幅広い世代が、楽しみながら福祉・介護を体験し、学習することによって、福祉・介護の現場で働くことに対する興味、関心を高める
2 介護の仕事に関する世代横断的理解促進事業	福祉・介護の魅力を伝達し、福祉・介護に対して抱いているイメージを向上させるなど、若年層から中高年齢層までの幅広い世代に対して、世代横断的に福祉・介護の仕事に関する理解を促進する
3 ターゲット別魅力情報発信事業(若年層向け)	福祉・介護に対して抱いているイメージを向上させるなど、若年層に対して、ターゲット別アプローチにより、介護のイメージ転換を図る
4 ターゲット別魅力情報発信事業(子育てを終えた層向け)	福祉・介護に対して抱いているイメージを向上させるなど、子育てを終えた層に対して、ターゲット別アプローチにより、介護のイメージ転換を図る
5 ターゲット別魅力情報発信事業(アクティブシニア層向け)	福祉・介護に対して抱いているイメージを向上させるなど、アクティブシニア層に対して、ターゲット別アプローチにより、介護のイメージ転換を図る
<div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">本事業の対象</div> 6 ターゲット別魅力情報発信事業(介護事業者向け)	<u>介護事業者に対し</u> 、介護職員の離職防止や定着促進等の雇用管理の意識の向上をはじめ、都道府県で実施されている「人材育成等に取り組む事業所の認証評価制度」の普及を含めて、 <u>人材確保に対する意識を高める</u>

## マネジメントスクール内容

【 コンテンツ検討委員会にて、現場マネジメントの研修内容を検討 】

介護福祉業界の現場で活躍するメンバーを委員に選出し、実際に介護現場でのマネジメントに関する課題を精査し、普遍的な知識と実践的な学びの場を作ります。

### コンテンツ検討委員会メンバー

- ・一般社団法人FACEtoFUKUSHI 介護福祉士 大原 裕介氏
- ・東京藝術大学 美術学部 特任教授 伊藤 達矢氏
- ・甲南大学 文学部 教授 阿部 真大氏
- ・社会福祉法人福祉楽団 介護福祉士 飯田 大輔氏
- ・社会福祉法人青森社会福祉振興団 専務理事 中山 辰巳氏
- ・社会福祉法人愛川舜寿会 常務理事 馬場 拓也氏
- ・慶應義塾大学大学院 教授 堀田 聡子氏
- ・株式会社シルバーウッド 代表取締役 下河原 忠道氏
- ・株式会社JoinforKaigo 代表 秋本 可愛氏

【 研修コンテンツはMBCとVRを活用したケーススタディ 】



### ・MBC研修

介護現場に限らず、管理職全般に必要とされる、「マネジメントの原理原則」を習得し、職場全体の力を高めるための研修。

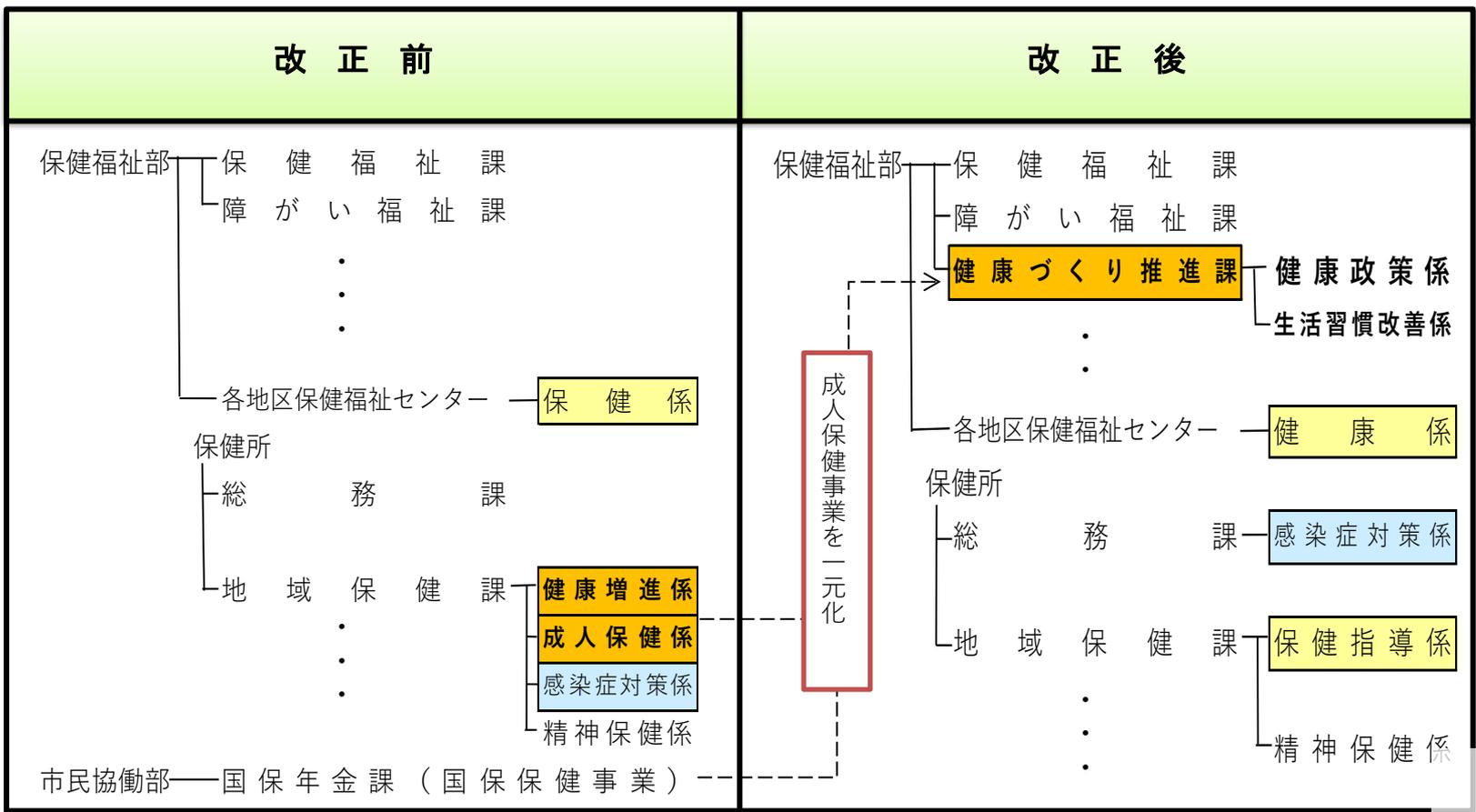


### ・VRを活用したケーススタディ

介護現場で実際に起こりうる、マネジメント課題を実際にVRで複数体験しMBCでの学びを元に、参加者でケースディスカッションを通じた実践的な学び

## 健康づくり推進体制の強化(平成31年度いわき市行政組織改正(抜粋))

市では、本年を「いわき市健康元年」と位置づけ、市民の健康づくりに向けた取り組みを推進するため、保健福祉部の再編を行い、保健所地域保健課の成人保健事業及び国保年金課の国保保健事業を集約し、健康づくり推進課を新設しました。  
 健康長寿の実現に向けて、市民・団体・企業の皆さんとの共創により、各種健康づくり施策を積極的に展開していきます。

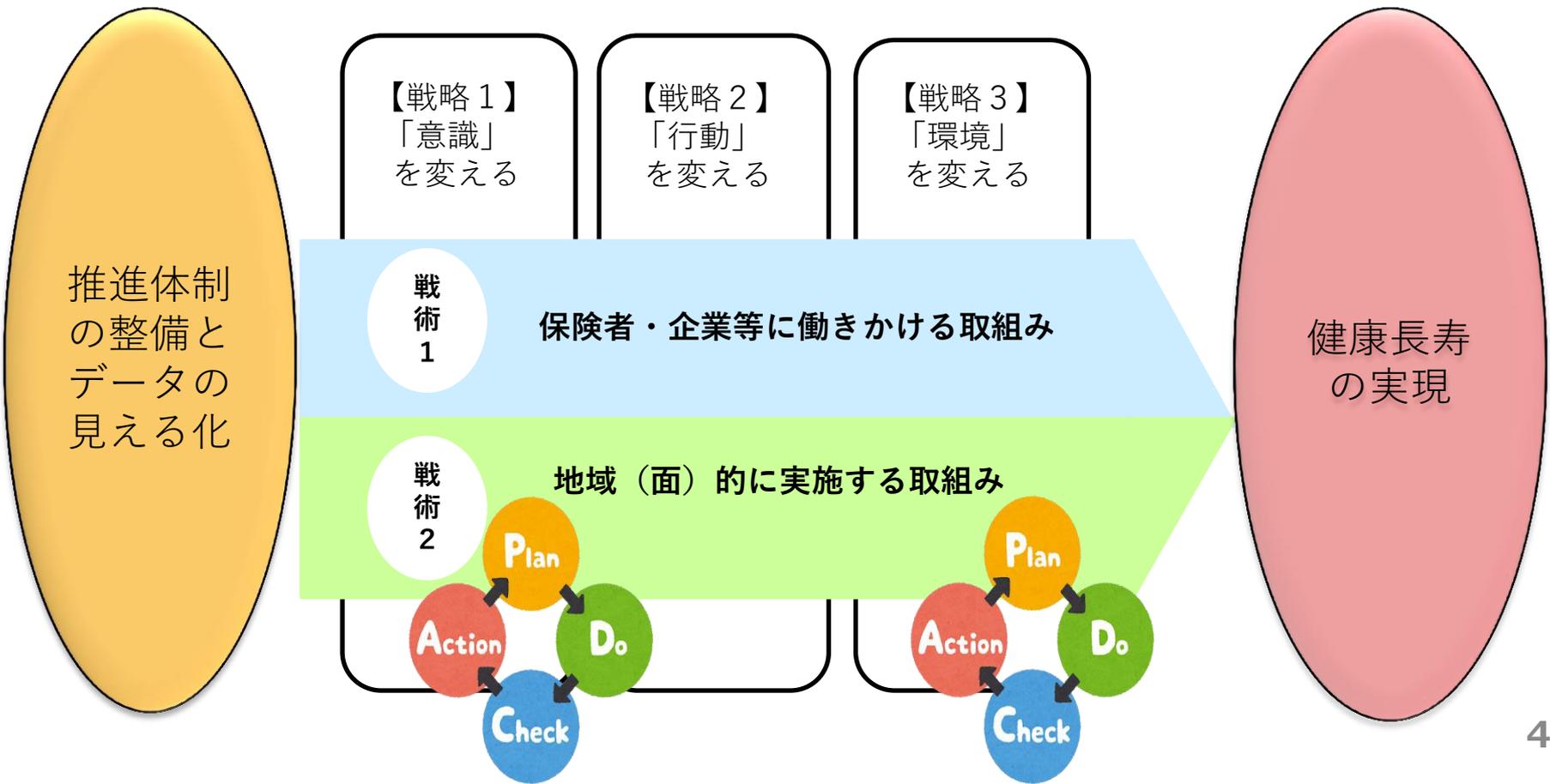


～健康長寿へ向けた取り組み～健康いわき21(第二次)

いわき市健康長寿重点プロジェクトについて

目標達成に向けた3つの戦略と2つの戦術

基本目標



## 重点プロジェクトを先導する主な取り組み

### 1 健康データの「見える化」

- 健康データを分析して、市の健康課題を明らかにし、効果的な健康づくり施策を展開

### 2 健康づくり推進体制の整備

- 全市的な健康づくりを官民協働で推進する体制（健康いわき推進会議）を整備

### 3 地区まるごと健康づくりモデル事業

- 地域団体との連携（モデル地区）による運動教室や健康相談等の重点メニュー展開  
⇒ 地域全体で健康づくりに取り組む機運醸成

### 4 官民共創健康づくり事業

- 民間企業との協働による生活習慣病の予防につながる食生活の改善等